



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立桑園小学校

読書センターとしての機能

■開放図書館ボランティアによる朝の読み聞かせ

月に1回、朝の10分間の「いそしむ時間」を利用して、開放図書館ボランティアが各学級で本の読み聞かせを行っています。

子どもたちにとっては、自分で読みたいと選んだ本以外にも触れる機会にもなり、また、図書館にある本の紹介にもなっています。

ボランティアの方に対面で読んでもらうことができるので、読み聞かせ後には子どもたちの感想を聞いたり、その本や作者に関する情報を教えていただいたりすることもありました。

本を介して人とつながったり新しい分野への興味を広げたりする機会にもなっています。

学習センターとしての機能

■3年生の国語

『おすすめの一さつを決めよう』

一年生が本を好きになってくれるような楽しい本を紹介するために、班で一冊、おすすめの本を決める学習活動です。一人一人が持ち寄った本を見せ合って、比べたり本の内容を検討したりして、一年生のためにはどのような本がよいのか、根拠を伝えながら話し合っていました。班の中で「司会」や「時間係」を決めて順番に経験したり、一人一台端末で撮影した話し合いの様子を見返したりしながら、よりよい話し合い活動に向けて振り返りも行っていました。



情報センターとしての機能

■図書委員による『おすすめの本コーナー』、『読書すごろく』

運動会前には、図書委員の児童が企画し、図書室内のコーナーに本を展示していました。運動会に向けて走り方のレベルアップになるように、また、運動に苦手意識がある人も前向きに取り組むことができるように、など考えて本を選んでいました。さらに、本を手にとってもらえるように、本の紹介カードを作成して簡単な内容が分かるようにしていました。

また、「いそしむ時間」の朝読書に、各学級でより集中して取り組むことができるようにめあてを達成したら進んでいく「すごろく」を作成していました。

